

研 究 紀 要

第 59 号

「持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力の育成」(3年次)
～生徒の深い学びとカリキュラムの開発を通して～

平成 29 年

金沢大学附属中学校

はじめに

金沢大学附属中学校
校長 折川 司

金沢大学附属中学校の教育目標は「自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する」です。これは時勢や昨今の生徒の実情をふまえて数年前に策定し直したもので、その根底には、「知識・技能の習得に終始するのではなく、それらをどう使っていくか」というコンピテンシーベースの教育観が位置づいています。難しい知識を数多く抱え込んでいても、それを使わない、使えないのでは社会的使命を果たすことなどできません。平成26年度から始めた本校の Education for Sustainable Development (ESD) の実践的研究は、そうした教員の思いが起点となっています。

御存じのように、ESD は世界中の多くの学校・教育関係者が注目している教育プロジェクトの一つです。我が国では、主に総合的な学習のような場において、環境や平和、人権、生物多様性といった具体的なテーマを追究することによって実践されています。

本校では、そうした形での取り組みは勿論のこと、実はそれ以上に、持続可能な発展を実現する上で ESD が要求する「汎用的な力」を学校教育全体、特に教科等を横断する学習指導において効果的に育成していくための実践研究に力を入れてきました。ここでいう「汎用的な力」とは、①クリティカルな思考力（本校では「代替案の思考力」と表しています）、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的・総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、の四つを指しています。これらは、持続発展可能な社会の実現に向けた個人的な基盤・筋骨となるだけでなく、複雑で不安定、流動的なこれからの時代を生き抜いていくために不可欠な力でもあると本校は考えています。

このような切り口から本校は ESD 研究に鋭意取り組んできました。全体としては大きな成果を認めつつも、教科でタコツボ化しがちな中等教育の難しさもあって、3年経過した今でも熟していない点のあることは否めません。甚だ遅鈍かもしれませんが、今後も進化を続けるために、皆さまから忌憚のない御意見をいただくと幸いです。

最後になりましたが、平成28年度の研究を推進するにあたり、御指導をいただきました文部科学省国立教育政策研究所の濱野清先生、及び金沢大学、滋賀大学の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成29年2月